

ドル／円(4/2) もみあい継続も、重要指標の結果で方向感でるか



コメント

先週の値動き＝26週線をまたぎ、乱高下が続いた。ただ、方向感はない。

今週の指標＝重要指標が多い。まず、月曜日に日銀短観。金曜日には、米雇用統計も控えている。木曜日にはECBなどで政策金利も発表される。なお、米サマータイムに伴い、指標が1時間早まる。米指標は日本時間22:30が多かったが、今後は9:30に。

テクニカル＝もみあいが続く。ボリンジャーバンドのレンジ幅は縮小を続けており、値幅も小さそうだ。

常に利益を追求する積極的な投資家ならば、基本は短期投資になりそうだ。ただ、重要指標の結果次第ではそろそろ方向感が出てもいいだろう。

テクニカル・レート

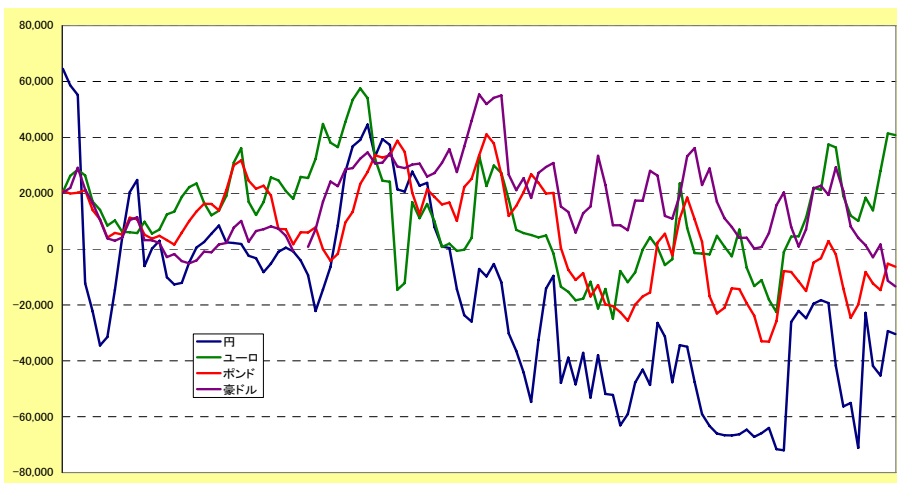
ボリンジャー+2σ = 120.92円
26週移動平均線 = 117.10円
ボリンジャー-2σ = 113.29円

先週始値 = 117.55円
先週高値 = 118.22円
先週安値 = 116.24円
先週終値 = 117.76円

今週の投資例

トレンド＝もみあい
現在値＝117.76円
エントリー＝様子見
指値＝
逆指値＝

ポジション動向も変化薄、ECB政策金利には注目

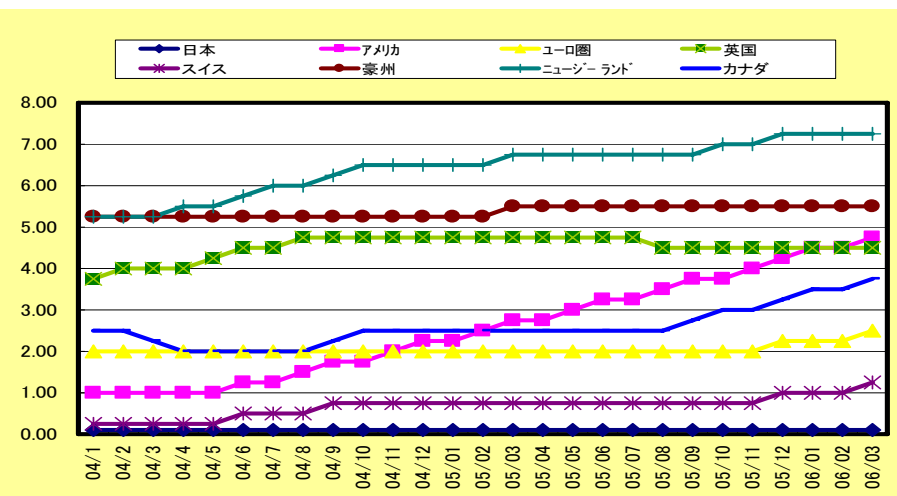


IMM投機筋ポジション動向

3月28日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の売り持ちは約▲3万枚。先週から約▲0.1万枚とやや円の売り越しが拡大した。なお、先週はどの通貨を見ても、それほど大きな変化はなかった。

28日のドル円相場は117.76円。直近3月31日は117.76円。発表後もポジションの偏りはでていなそうだ。

投機筋のポジション動向をみても、方向感がないことがわかる。過去▲2万枚から▲7万枚水準で推移していることもあり、トレンドに変化がなければ、円安の方が確率的には高いか。



各国金利動向

先週は、米FOMCに注目が集まった。ただ、ドル円に関しては方向感がでることなく、レートが乱高下しただけ。内容的には、次回5月の米FOMCでも利上げがあることが示唆された。

今週は、5日(水)に豪州、RBA政策金利が発表される。翌6日(木)には、イギリスBOE、欧州ECB政策金利が発表。いずれも据え置き予想となっている。

RBAは年内大きな動きはなさそうだが、ECBについては、06年さらなる利上げ見通しも強い。ユーロドルの動きには注目したいところ。